

校長室の窓



令和6年度1学期始業式

「先入観を捨ててみる」

今年度、山北高校の校長になりました多田です。私は、今の3年生が入学された年に、新任副校長としてこの学校に着任いたしました。本校3年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

改めまして、3年生・2年生の皆さん、進級おめでとうございます。そして、1年生の入学式を明日に控え、どうぞ、この後の後輩を迎える準備なども、よろしくお願いいたします。

令和6年度の始業にあたり、校長として皆さんにお話しさせていただきます。

さて、皆さんは、春休み中いろいろなことを考えたり、思ったりしながら、今日の日を迎えていることと思いますが、1年生がいないので、少し大人の話をしていきましょう。

皆さんは、これまでの付き合いの中で、A君はこんな人、Bさんはあんな人、そして自分はこんな人、という思いや考えを、それぞれが持っていると思います。しかし、それが、新しいスタートにとっては、邪魔になったり、妨げになったりすることが、実は多いのです。皆さんがどれだけ先入観というものに支配されているか、簡単なテストをしましょう。これは、架空のお話です。

「ドクター・スミスは、アメリカのコロラド州立病院に勤務する、腕利きの外科医。仕事中は、常に冷静沈着、大胆かつ慎重で、州知事にまで信望が厚い。ドクター・スミスが、夜勤をしていた、ある日、緊急外来の電話が鳴った。交通事故のけが人を搬送するので、執刀してほしいという。父親が、息子と一緒にドライブ中、ハンドル操作を誤り、谷へ転落、車は大破、子どもが重体だと、救急隊員は告げた。20分後、重体の子どもが、病院に運ばれて

きた。その顔を見て、ドクター・スミスは、アツと驚き、茫然自失となった。その子は、ドクター・スミスの、息子だったのだ。」

さて、皆さんは、この話を聞いて、おかしい。この話は成り立たないと思いませんか。

そうです。「なぜお父さんが二人いるのか?」と感じた人が、多いのではないのでしょうか。

実は、皆さんの中に、「お医者さんは男性になるものだ」という先入観があるかどうかを、テストしたものです。

女性の医師は、テレビドラマになるほど、いまだに限られた存在かもしれません。そうした社会的な状況が、皆さんの考え方を狭めているとしたら、どうでしょうか。先入観にとらわれることは、固定観念を強め、新しい見方や、考え方を、遠ざけてしまうことにも、つながります。

皆さんが、新しく自分を高めよう、自分を変えようと、考えている。この4月に、ぜひ、様々なこれまでの先入観は捨てて、透き通った視点で、友達やクラスを見直してみると、新しい発見がたくさん見つかるかもしれません。

いよいよ、新年度が始まりました。

77期生である3年生、3年生は、勉強と引退までの部活動に、全集中するときです。この1年間の過ごし方が、この先の人生を大きく変えるといっても過言ではありません。皆さんの将来の志は、決して下げることなく、自分で選択した進路の実現に向けて「着実に努力」で、取り組み励んでください。

また、78期生である2年生。2年生は、学校の中心、皆さんの大好きな部活動や、行事、修学旅行など、心おきなく時間を費やせる年です。反面、勉強がおろそかになる時かもしれません。文武両道。どうか気を緩めることなく、毎日の授業を大切にメリハリのある学校生活を送ってください。

最後になりますが、何か悩んだり、迷ったり、心配事などがあるときは、決して一人で悩まず、家族や友人、そして先生方にぜひ相談してください。また、本校には、毎週月曜日に、先ほどご紹介した、スクールカウンセラーの瓜田先生や、スクールソーシャルワーカーの堤先生が来校されています。ぜひ相談してみてください。

どうぞ、この1年間、皆さんとともに、心も体も、健康で元気に過ごしていただきたいと思います。皆さんの今後ますますの活躍を期待します。